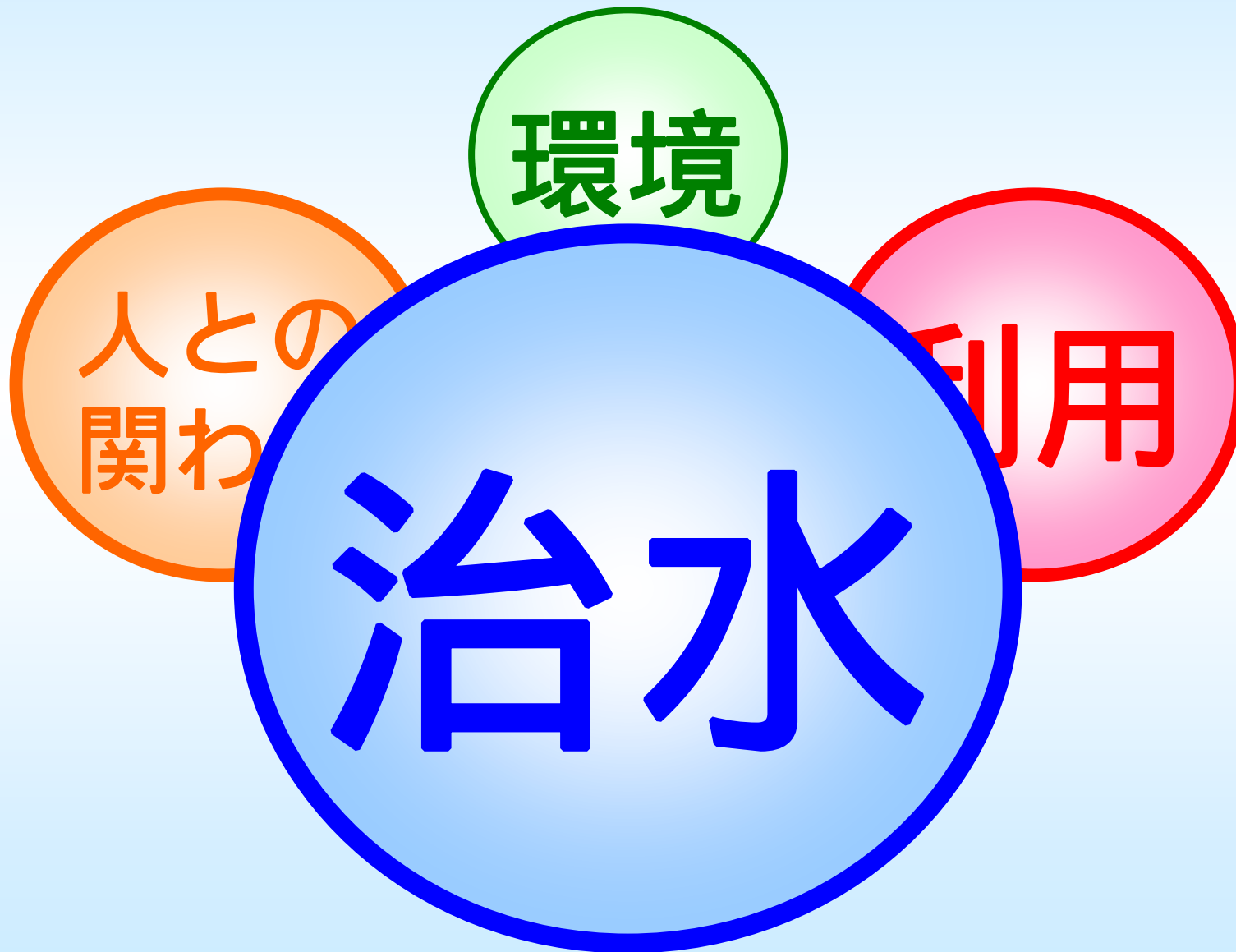


## 議題 - 2

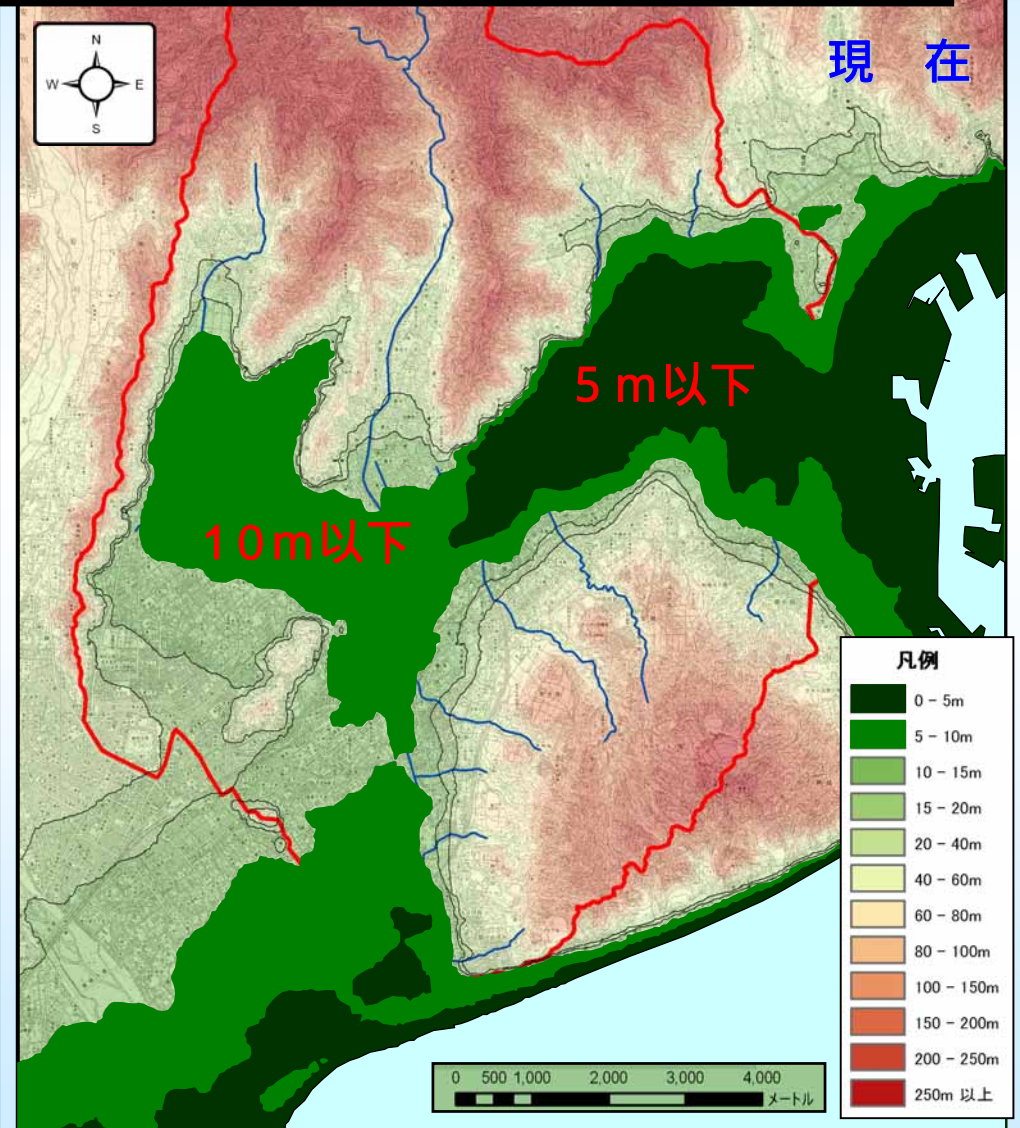
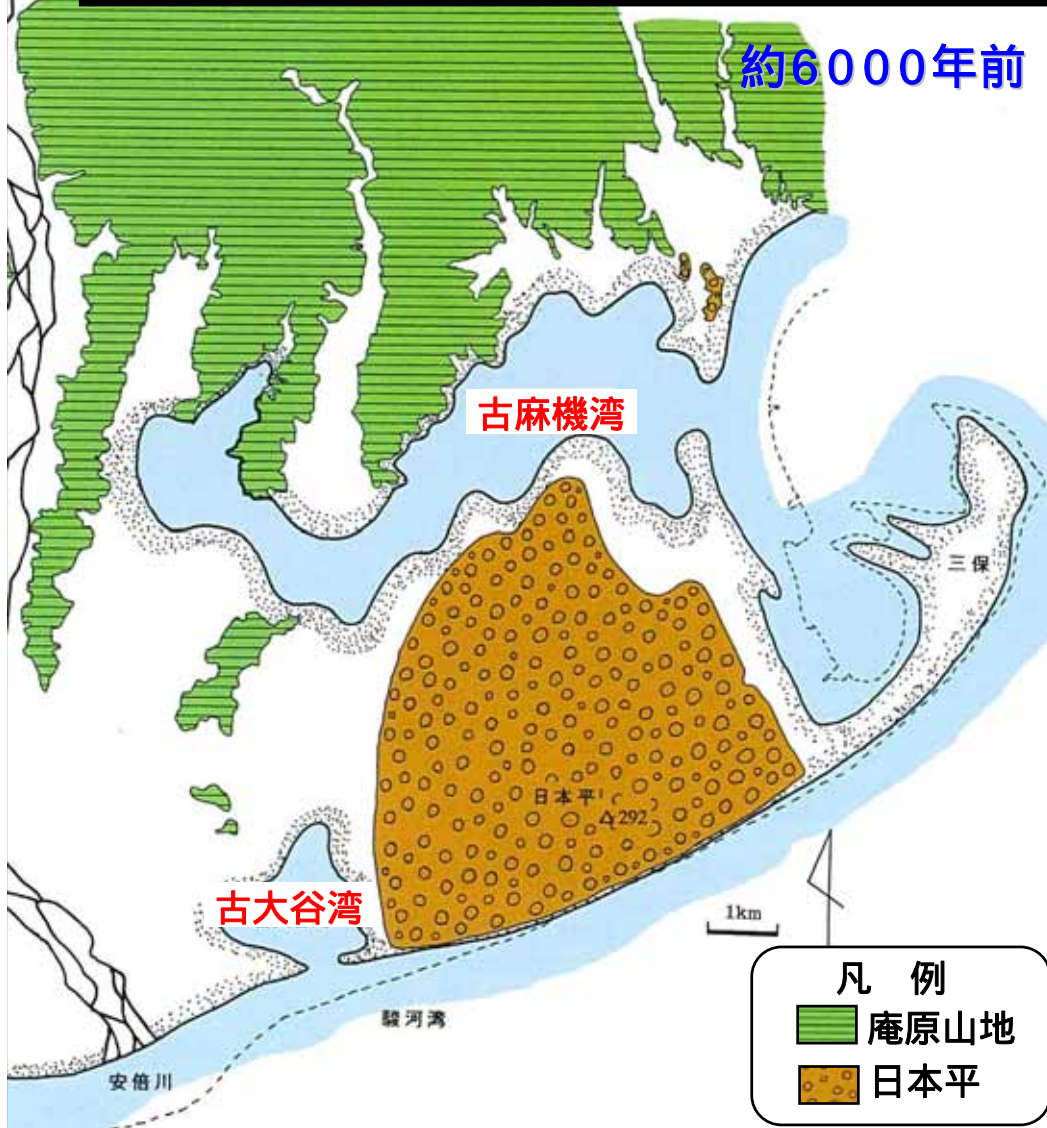
# 河川の現状と課題

- 1 . 治水 に関する現状と課題
- 2 . 河川の 利用 および 水利用 に関する現状と課題
- 3 . 河川 環境 に関する現状と課題
- 4 . 河川と 人との関わり に関する現状と課題

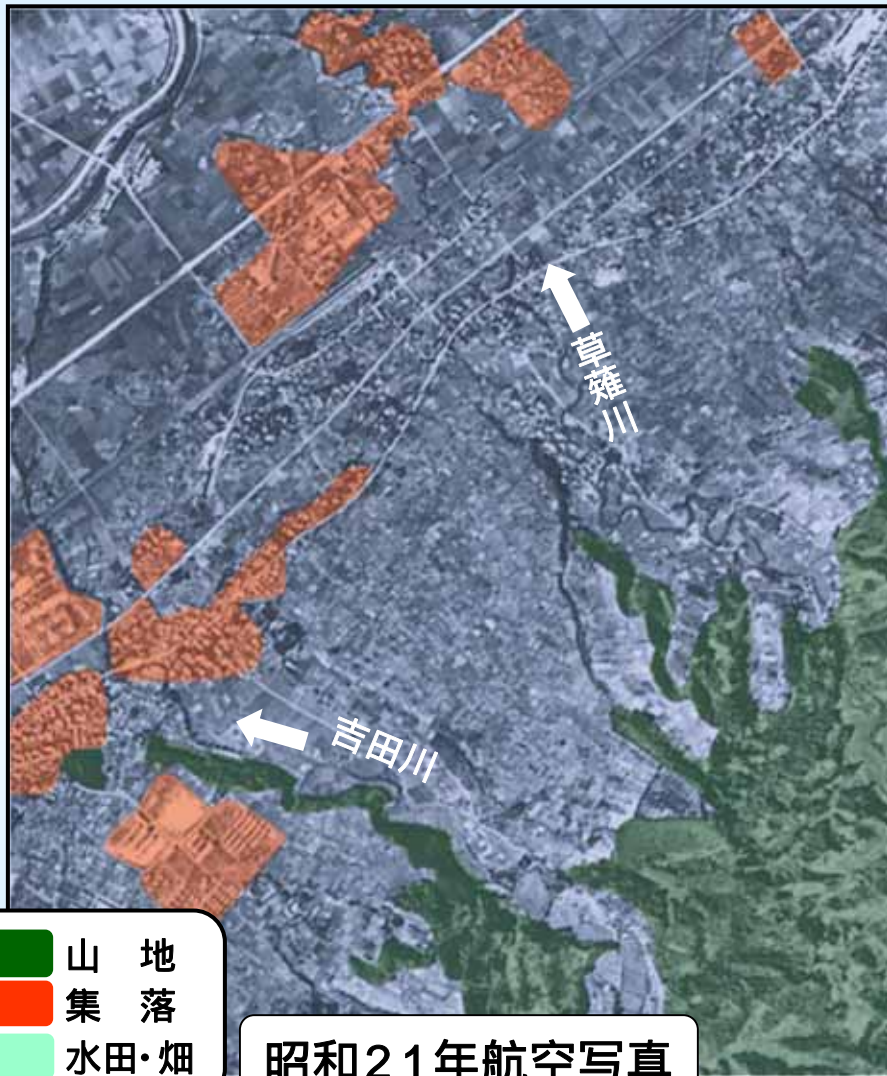
# 1. 治水に関する現状と課題



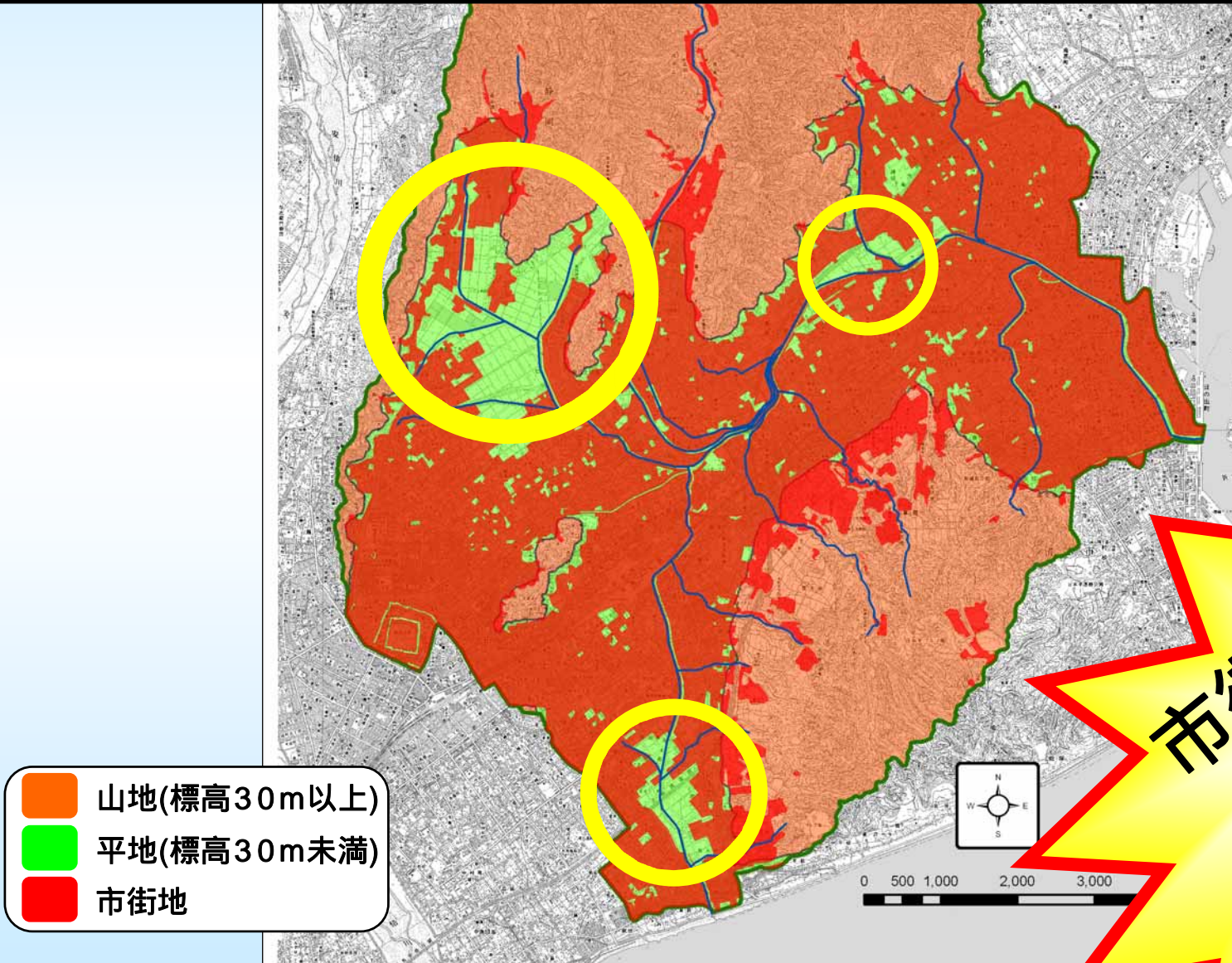
巴川本川とその周辺は、低平地であり、巴川は河床縦断勾配が緩い河川です。



巴川流域は、平地部の耕作地が減少し、そのほとんどが市街化し、山までへ開発が広がっています。



巴川流域は、平地部の耕作地が減少し、そのほとんどが市街化し、山までへ開発が広がっています。資産も増大しています。



市街化率  
50%

巴川流域は、平地部の耕作地が減少し、そのほとんどが市街化し、山までへ開発が広がっています。資産も増大しています。

巴川流域が抱える  
人口:約35万人  
資産額:約4.5兆円

- 山地(標高30m以上)
- 平地(標高30m未満)
- 市街地



0 500 1,000 2,000 3,000 4,000  
メートル

七夕豪雨(昭和49年7月)で、未曾有の浸水被害が発生しました。

総雨量：508 mm  
最大雨量：84.5 mm / 60分



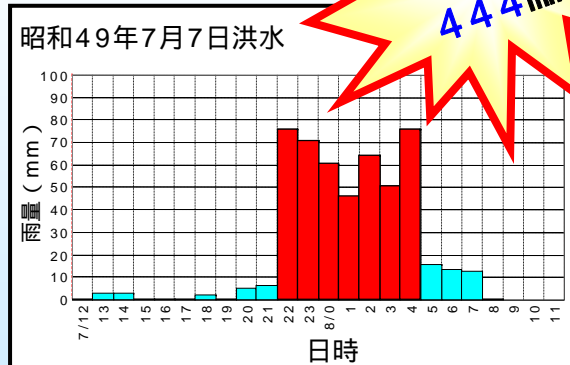
巴川・長尾川・継川合流点



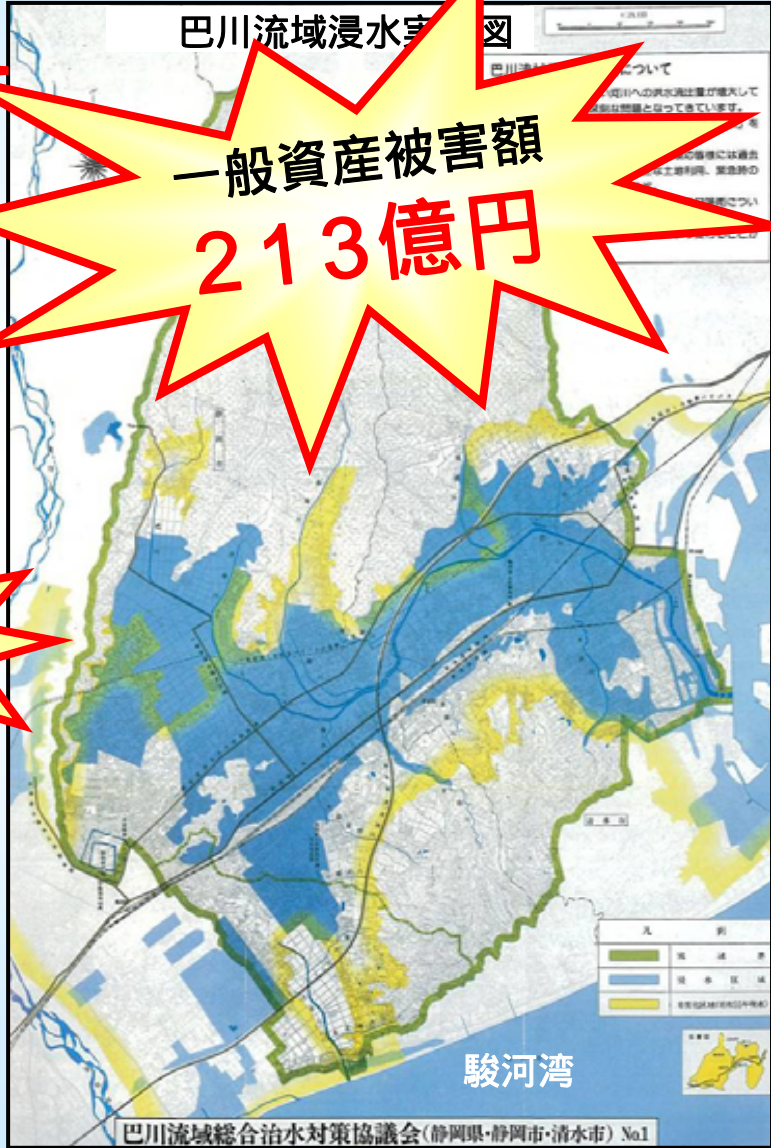
長尾川



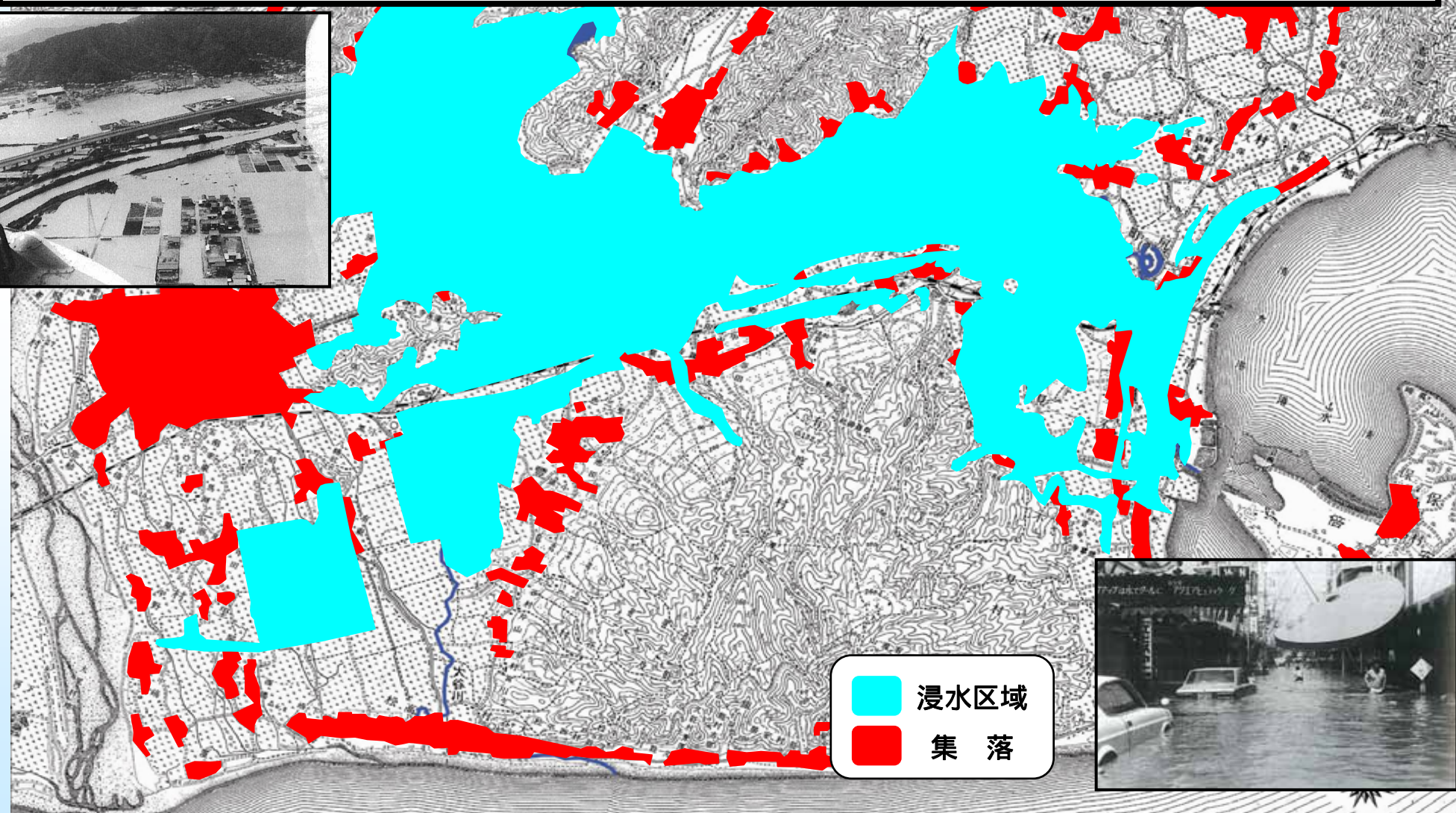
清水銀座



7時間で  
444mm

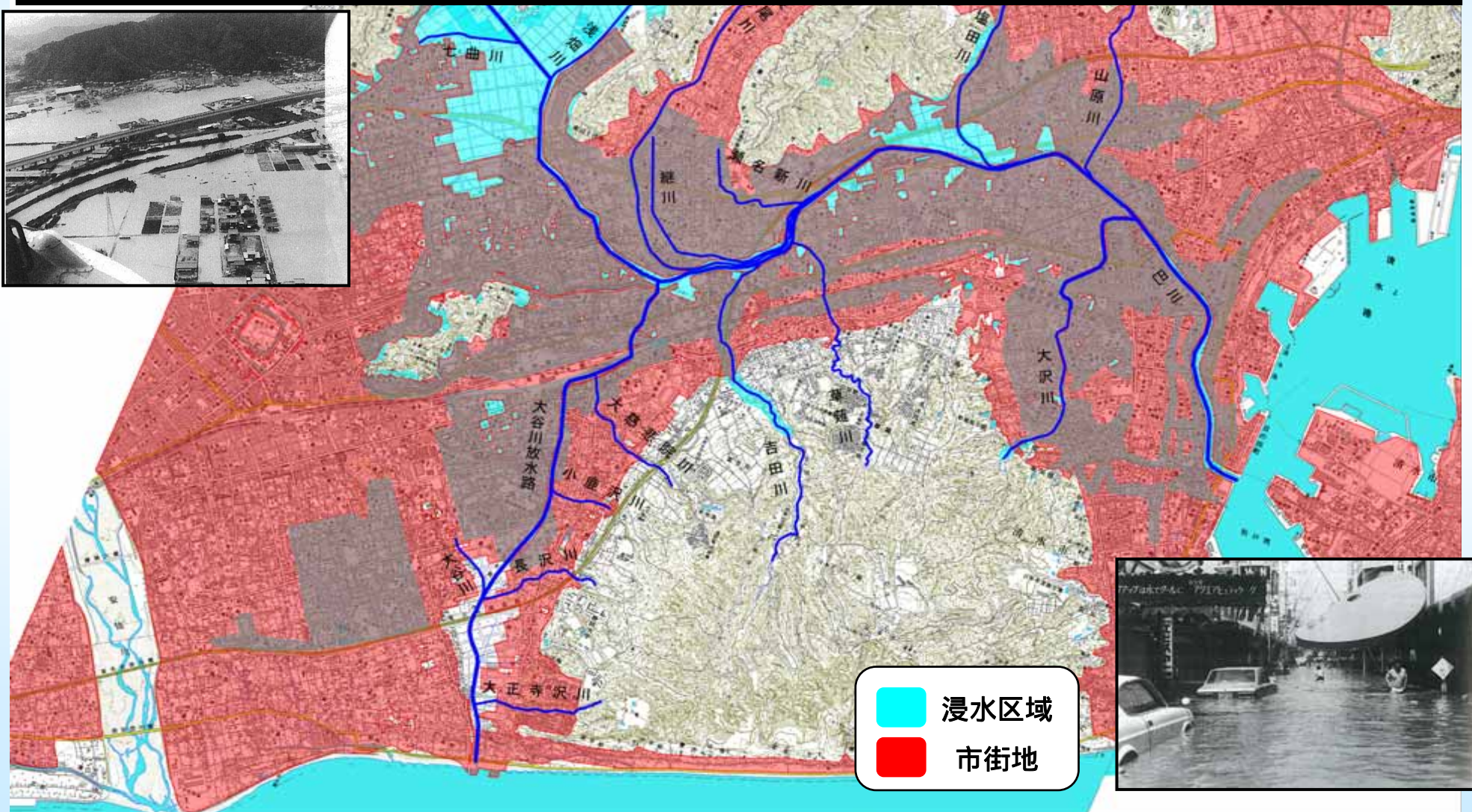


七夕豪雨(昭和49年7月)の浸水範囲は、明治時代には、ほとんどが水田でしたが、現在は、開発され、高度な土地利用がされています。





七夕豪雨(昭和49年7月)の浸水範囲は、明治時代には、ほとんどが水田でしたが、現在は、開発され、高度な土地利用がされています。

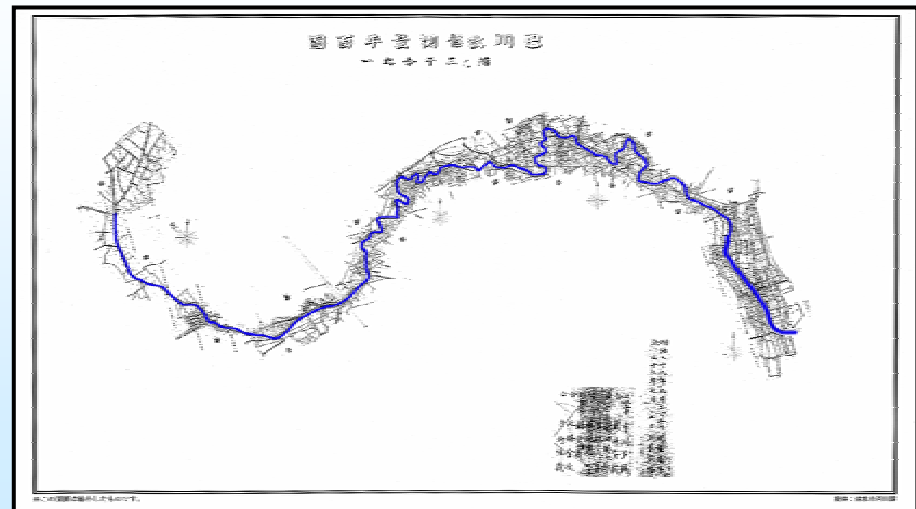


流域の発展のためには、氾濫を繰り返す巴川の改修や維持浚渫は不可欠でした。

巴川改修記念の碑（弥生緑地下流）



巴川の改修状況（明治43年）



巴川改修測量平面図（明治40年改修）

七夕豪雨での未曾有の浸水被害をうけ、抜本的な治水対策の機運が高まり、昭和54年から治水対策はハード面とソフト面の総合的な整備を行っています。

